

令和元年度 第2回市政モニターアンケート 「広報ふじのみや」の集計結果について

(1) アンケート実施の理由

富士宮市は、市の広報紙「広報ふじのみや」を毎月発行しています。

広報ふじのみやの作成・編集では、言葉やデザインを工夫し、2018年度の7月号では、静岡県広報コンクールの広報紙部門の市の部で優秀賞を受賞するなど市民の皆さんに「伝わる広報」になるよう努めています。

そこで、最新の「広報ふじのみや」に対して意見を伺い、今後さらに市民の皆さんに分かりやすく親しみやすい広報紙を目指すため、このアンケートを行いました。

(2) アンケートの主な意見からの考察

※詳細は、別紙2のとおり

・「ここが読みづらい！！」

全体的には、「読みやすい」「どちらかと言えば読みやすい」という意見が大多数でしたが、レイアウト部分について「もっと余白があった方がよい」「写真や絵が増えた分、文字が凝縮されて読みにくい時がある」といった意見もありました。

目に留まりやすくするために挿入している写真やイラストによって、逆に読みにくく感じるという意見があり、ページ全体のバランスにもっと配慮する必要があることがわかりました。

・「これが知りたい！これを読みたい！」

「防災に関する情報」「食に関する情報」「小中学生向けの情報」「市の魅力に関する情報」に関心が高く、定期的に広報紙で取り上げてほしいという意見が多数ありました。特に、「防災に関する情報」では、「災害時～通常時の備えや準備を知りたい」、「食に関する情報」では、「富士宮の特産に関する情報を毎月紹介してほしい」「調理方法を教えてほしい」といった意見が多くあり、身近で役立つ情報が「知りたい・読みたい」と思われているということがわかりました。

一方で、「たまにはマニアックな情報も読んでみたい」という意見もあり、幅広い分野から深く掘り下げたネタを取り上げてみるのも新たな読者獲得につながる可能性があると感じました。

・「もっと読みやすくするには…」

「表紙」でインパクトを与えられるような工夫が必要！という意見がありました。手に取った時に、表紙で興味や関心を引けるような工夫をすることで、広報紙を開いて見てもらうという行動に繋がられるように、写真の撮り方やデザインを学ぶ必要性を認識しました。

アンケートの意見をまとめる中で、市民に親しまれる広報紙を作っていくために、レイアウト等の工夫はもちろんですが、生活に役立つ情報や身近な情報をもっと取り上げていく必要があることが認識できました。